

以下、関連情報です。

1. 外部グラウンドの利用
2. 室内練習場建設のシナリオ
3. 旧バッティングセンターについて

1. 外部グラウンドの利用

現在、東高グラウンドの他に、彦根球場および室内練習場、多賀町民グラウンド、長浜の浅井球場等、外部での利用グラウンドは限られています。滋賀県立大学グラウンドは外部者も使用可ですが実質的に使用不可。滋賀大学経済野球部は専用グラウンドを所有されており両校野球部の監督・部長の間で逐次お話されています。



2. 室内練習場建設のシナリオ①： パートナー企業との取り組み

室内練習場の機能を持つ施設を事業化するパートナー企業（A 社）を見つける。東高野球部は主要ユーザーとして使用料を支払う。A 社が不動産を所有していない場合、別のパートナー（少なくとも土地を所有）に不動産を拠出して頂く必要がある（拠出形態は賃貸を想定）。初期投資（テント倉庫（750m²）＋内装整備費）57.5 百万円と想定。既設の建物があれば 20 百万円と想定。OB 会は初期投資資金の一部を負担する。

パートナー企業候補：M 社（該当地域に不動産なし）

3. 旧バッティングセンターについて

(建設の経緯)

当時の野球部監督の発案をもとに、保護者会会長が企画し彦根相互トラック(株)が事業化されました。遊休資産であった同社倉庫を活用。同社が同業他社に買収され 2017 年に閉鎖。



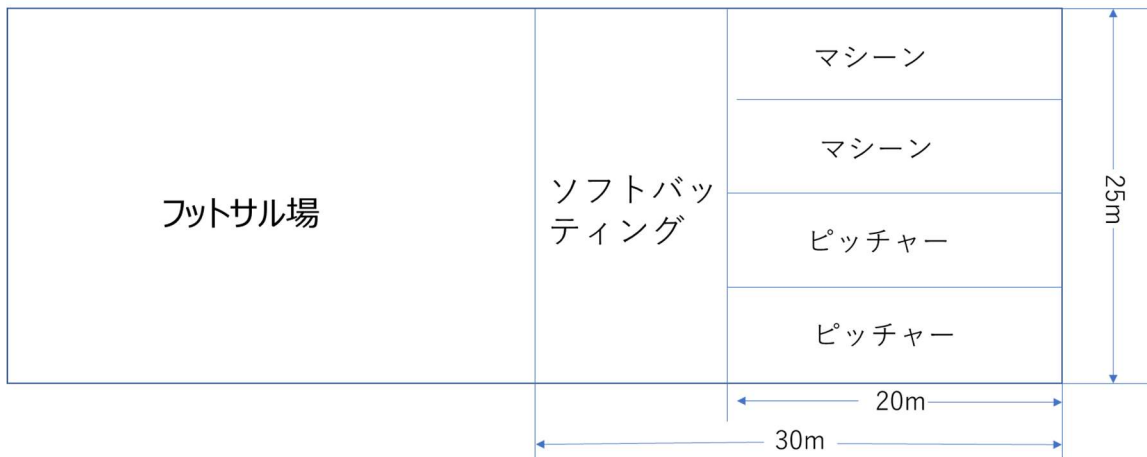
(施設・投資額・収支状況)

倉庫 2 棟 (各 1,500 m²)のうち 1 棟 (A 棟) を通常のバッティングセンター (軟式)、もう 1 棟をフットサルなどと兼用できる多目的施設 (B 棟) とした。B 棟にネットを張り巡らせバッティング練習を可能にした。東高野球部は B 棟を活用した。

投資額：計 1 億円 (A 棟 7 千万円、B 棟 3 千万円) で全額銀行借入れ。

収支状況：A 棟・B 棟合わせて年間 1 千万円以上のフリーキャッシュフローがあり事業採算上プラスであった。東高野球部は毎月 10 万円程度支払っていた。

(旧バッティングセンターのレイアウト)



(想定金額試算)

- テント倉庫：5 万円/m² X 750m²=約 3750 万円 (某テントメーカー試算)
- 建物倉庫：10 万円/m² X 750m²=約 7500 万円 (某メーカー建築チーム試算)
- その他：人工芝、ネット整備費 約 3000 万円 (旧バッティングセンター1500m²での情報)